

Eureka IX

六年制通信 No.26 令和3年11月26日(金)号

小出し

「100と0」より「50と50」をよしとする。これは日本の教育を揶揄した言葉です。特に義務教育の間は「0」を作らないようにと、そればかり強調されているように世間では受け取られているのですね。確かにそういう面はあります。0があったとしても、せっかく100があるのだから、それを200にも300にもすればいいではないか、という発想は日本人は苦手ですね。私は、中高で習うレベルなら「できなくていい」教科などないと思っています。つまりどの教科であっても0でいいとは思いません。しかし同時に、一つの分野が突出してできることを好ましく思っています。むしろどんどん先へ先へと、好きな分野の勉強をしてほしいと思っています。そして、そういう生徒は遠慮なく私たちの学校を飛び出して行くべきだし、また、そういう生徒を教育する特別な機関が日本にあってほしいと思います。そんな機関が難しかったら、せめて飛び級で大学に入れるようにしてほしいですね。数学の超ウルトラ天才（で変人らしいけど）、京都大学の望月教授は、確か16歳でプリンストン大学に入学したのではなかったか。君たちも自分を検証してみて、並外れた集中力を発揮できる分野があるのなら、その分野で100を越えてみるといい。

集中力で思い出しました。人間の集中力の限界は6時間、私が高校生の頃にはそう言われていました。個人差があるに決まっていますから何時間でも構わないと思いますが、集中力を強くする方法とか関心を持ち続けるにはどうすればいいとか、こういう問題はいつの時代にも魅力がありますが、どうやら特効薬はないようですね。

ただ、物事の続きが気になるような仕掛はありますね。君たちも毎日経験していると思います。テレビを観ていると、最近はそんな仕掛ばかりです。

ウルトラマン、今は初代ウルトラマンと言わないとわからないですか。私はウルトラマンとウルトラセブンは全部観ていますが、その先は知りません。仮面ライダーもV3までしか知りません。小学校のクラスにはバルタン星人やショッカーの真似をして走り回っているのがいました。あの頃のテレビは、ウルトラマンがカラータイマーを点滅させながら最後にスペシウム光線（どういうわけかカラータイマーがピコピコするまでは発射しません）を照射して、怪獣たちが倒れるか爆発して終了。ウルトラマンは空の彼方へ飛び立ちます。何の話かという、CMをどこに入れるかという問題です。昔はキリのいいところでCMでした。怪獣が倒れた後に。今なら間違いなくスペシウム光線を発射する瞬間にCMとなるでしょう。今のテレビはこういう仕掛だらけですよ。次が気になって仕方がないような終わり方をするわけです。連続ドラマで

も同じ工夫がなされています。予告ですら、上手な切り方をしています。「つづきは web で」とか「正解は CM のあとで」など、よく耳にします。人間は完成すると関心をなくす傾向があるので未完成でいったん手をとめてみる。そうすると関心が持続し集中して取り組む時間もトータルで増えると言われていました。ですから問題集のこの章が終わったら休憩しようとするのではなく、次の章の 2, 3 問をした段階で休憩するのです。中途半端で終わると休憩後もスムーズに取り組めるというのですね。キリのいいところで問題集を閉じると、その先に進もうとしないのです。面白いですね。

人間は未完の物事の方が記憶に残るということ、これをロシアの女性心理学者の名にちなんでツァイガルニク効果と言います。一つの課題をやり終えてから次の課題に進むグループと、課題が終わりそうなきに無理に中断させ次の課題を与える（以下同じように中断させてから新しい課題を与える、を繰り返す）グループを作り、どんな課題があったかを思い出させたところ、中断させられたグループの方がやり遂げたグループの 2 倍も覚えていたらしい。これはものすごい数字ですね。関心が持続するのですね、途中でやめると。テレビなどはすべてを観せるのではなく「小出し」にするテクニックを使っているのですね。ドラマなど、それで一週間も楽しみな状態が続くわけです。そういえば、分冊で販売する雑誌もありますね。毎号、小さい部品がついていて、初回は安くて、完成すると昔懐かしい車とか宇宙船が出来上がると。毎回完成しないところが長続きする、つまり買い続ける（続けさせる）秘訣なのでしょう。

このツァイガルニク効果、普段の勉強にも応用できるよ、きっと。

今週のおすすめ

・野澤亘伸 『絆 棋士たち 師弟の物語』（日本将棋連盟）

新聞の一面記事になりましたね。藤井聡太三冠が竜王位を獲得し、史上最年少（いつものことですが）の四冠となり将棋界の序列一位になりました。豊島元竜王は藤井新竜王がプロデビューして以来 6 連勝し、藤井さんにとって最強にして最後の壁と言われていましたが、このところのタイトル戦（王位戦、叡王戦、竜王戦）を経て現在何と藤井さんから見ると 13 勝 10 敗と逆転、直近で 7 勝 1 敗。豊島さん、大丈夫かなあ。そんな藤井四冠が今後の目標を聞かれ「強くなることです」と答えているのを他の棋士はどんな気持ちで受け止めているのでしょうか。ちなみに、将棋の神様がいたら何をお願いしたいかと聞かれたとき、藤井さんだけが「せっかくですから一局お手合わせしていただきたい」と答えていました。神様と将棋を指したいのですね。

さて本書は、これまた、久々に感動しました。将棋を知らなくても全く大丈夫です。杉本藤井を含め 8 組の師弟の物語です。ほとんどの場合、弟子の方が師匠を越えた活躍をしているのですが、弟子たちの師匠に対する尊敬と敬愛の念がよく伝わってきて、今時このような若者たちがいることに静かにそして深く感動しました。師匠といっても就職の世話をするわけでもなし、将棋を教えることすらない世界なのですが、美しい絆で結ばれているのがよくわかります。是非お読みください。

BGM は Van Halen の *Jump* でした…。